



## ◇ 石碑石仏調査を実施 ◇

4月22日(木)、町内に現存する文化財(未指定文化財も含む)保存活用計画策定の予備調査として、本町の観音山にある三十三観音を確認しました。

えりも町郷土資料館N42°の会員9名と一緒に参詣道を歩き、参詣道がシカ道と重なっている部分やわかりづらくなっている場所等もありましたが、三十三体の観音様を無事に確認することが出来ました。

確認の最中には、ヒメイチゲやカタクリの花、ギョウジャニンニク等春の訪れを感じられる発見もありました。

### ●三十三観音

三十三観音は、観音菩薩が衆生の願いに対応して、三十三身に姿を変えて法を説かれるということから明治21年(1888年)に祀られました。三十三番目の観音様は法光寺に安置されています。

平成12年(2000年)に発行した「えりも町ふるさと再発見シリーズ2 石碑石仏」に掲載されていない「石碑石仏」の情報がありましたら、郷土資料館までご連絡ください。



写真：N42°の会会員と石仏を調査

## ◇ 郷土資料紹介 ◇

今回は、「ポンプ」について紹介します。ポンプは外来語(オランダ語)で、圧力の作用で気体や液体を吸い上げて押し出す機械ですが、日常生活でもっともなじみの深いのは地下水を汲み上げるポンプでした。

家庭用水を得る方法は、開拓期には沢や川水を桶(おけ)やバケツで汲み、家まで運ぶのが普通で、地形的に恵まれた所では沢水を樋で引くこともありました。

やがて、家ごとにあるいは共同で井戸が掘られ、つるべを使って水をくみ上げるようになりましたが、画期的だったのが、このポンプの普及でした。

台所のポンプのそばには必ず水瓶が置かれ、柄杓(ひしゃく)が添えられていました。

便利だったこのポンプも水道が設けられると姿を消し、現在ではほぼ見かけることはなくなりました。



写真：水産の館に展示されている「ポンプ」と「水瓶」

## 地名の由来 ～ ウタロ(歌露) ～

地番調書(昭和17年(1942年)幌泉郡幌泉村字地番整理調書)によると、「ウタロップ、歌露布」、五万分地図(明治45年(1912年)発行幌泉郡五万分之一地図)は「オンネタロップ」と記されています。

しかし、江戸末期の文献になると「ヲニタタラフ」とあり、さらに文化七年(1810年)の『幌泉大概書』も「ヲニタタラフ」としていることから、原名は「オニタタラプシ」と考えられます。

由来について、松浦日誌は「本名をヲシラフシと云て、土人薬に用ゐ(いる)草ある故也。」と記しているが、どうも理解できない言葉です。

語源は「オ・ニ・タタ・ラプ・ウシ・イ」(O - ni - tata - rap - us - i) ところで・棒・叩き叩き・下ること・いつもする・所)の意味だと思われます。

ここは、海岸に迫った岬のある所で、東にやや深い谷間があります。昔、鹿などの獲物を、この崖の上から追い落とすため、大勢で狩りをしたことによるものか、また、海岸に上陸してくる海獣などを捕獲したり、叩き追ったりしたことによるのではないかと考えられています。(えりも町史引用)



写真：道道襟裳公園線、歌露バス停付近

## 郷土資料の寄贈がありました

道外の方より、双眼鏡など4点の貴重な郷土資料品を寄贈していただきました。寄贈者からのお話では、双眼鏡は、父親の友人が戦時中に、「襟裳岬」へ兵隊として来ていた時に、実際に使用していた物だとのことでした。



寄贈された「双眼鏡(右)とケース(左)」

## 端午の節句

5月5日(水)は、「こどもの日」です。資料館では、4月22日(木)からホールに「鯉のぼり」を設置しています。



写真：「ほろいずみ丸」に鯉のぼりを

5/1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月
○	○	○	○	○	休館日	○	○	○	○	休館日	○	○	○	生き物調査隊	○	○

18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	6/1	2	3
火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木
休館日	○	○	○	わらしゃんど事業	○	○	休館日	○	○	○	わらしゃんど事業	○	○	休館日	○	○

5月～6月の  
開館カレンダー